

平成25年度 福島県社会教育研修会（伊達市）

対象は、
公民館等社会教育行政関係者
社会教育委員、社会教育指導員

と き：平成25年10月22日（火）

と ころ：伊達市伊達学習交流館

伊達市では、「地域の人材をどう活かすか」のテーマのもと、生涯学習の機会を増やし市民主体の学習を推進していくために、社会教育研修会を開催しました。

1 講 話

「地域の人材の活用について」

県北教育事務所 社会教育主事 佐藤亮治



資料をもとに、以下の5点についての講話がありました。

- 「知の循環型社会」の構築を目指して
- 学習した成果を活用する意義
- 学習した成果の活用を支援するための社会教育行政の役割
- 学習成果の活用支援の課題
- 県や県北域内各市町村での人材活用の取組紹介

2 現状報告

「伊達市生涯学習人材バンク利用の現状と今後の方向性」

伊達市生涯学習ボランティアコーディネーター 高橋三和子 氏



- 人材バンクの利用状況について
登録数74、登録人数131人、利用数198団体（H24）
- 人材バンクの広報活動について
「伊達市生涯学習ボランティアだより」の配付
- 人材バンクの今後の方向性について
登録者数の増加促進、登録者の研修等

3 グループ協議

テーマ「地域人材の活用について」

2つの分科会に分かれて、グループ協議を行いました。助言指導は、小野忠大、酒井隆志 社会教育主事が当たり、まとめは 佐藤亮治 社会教育主事が行いました。



- (1) 第1分科会
 - 人材バンクの利用の際の有償・無償について
 - 学校や地域の人材の情報の集約するセンターの役割について 等
- (2) 第2分科会
 - 上保原公民館や保原小市民ホームベースの事例紹介
 - 今後の60代～70代の人材活用の重要性とその方法について 等
- (3) まとめ
 - 市内には人材リストに上がっていない有能な人材がまだまだいる。その有用性を情報として集約する必要がある。コーディネーターの活躍にも期待したい。

